

第17回 MQI活動発表大会終了

H.24年12月15日（土）

H.24年度
MQI統一テーマ

自分で考え、実践する

院内参加者 152 名 ・ 外部参加者 56 名



第17回MQI発表大会を振り返って

理事長・病院長 飯田 修平



第17回発表大会は盛会裏に終わりました。しかし、課題が多く残ったことを認識している方がどの程度いるかが重要です。質疑応答やひたちなか総合病院永井院長のご指摘のとおりです。問題の分析と目標設定が十分ではなく、進捗管理が円滑でないチームが多く見られました。また、報文集の挨拶でも述べましたが、毎回、指摘事項を繰り返すことは大きな問題です。推進委員とチームの両方に改善を求めます。推進委員の指摘を受け入れないチームがあるようです。納得は必要ですが、自分で考えて理解する努力も必要です。

TQMやMQIに関する当院の多くの論文や出版物があります。MQI活動において理解する必要があるだけではありません。業務遂行に必要な考え方、方法が書いてあります。新年に向けて、病院機能評価受審を契機に、再構築してください。

第17回MQI活動発表大会報告

MQI推進委員会委員長 柳川 達生



第17回医療の質向上活動(MQI)発表大会に今年も他医療機関、産業界から50名以上の方々にご参加いただき盛会でした。受賞したチームはおめでとうございます。普段から着実に改善活動を実施できていたと思います。ただ、今回の発表大会では魅力のある発表が少なかったように思います。また良い発表であっても、もう一步できたのではないかと思えるチームもありました。

MQI活動は強い組織を作る基盤です。最近積極的に業務改善をしようという意欲のある部署もでてきました。活動方法を工夫すればさらに発展できると考えています。

次年度はMQI活動自体を改善し、第18回大会はさらに実りあるものにしたいと思います。

平成24年度MQI発表大会に参加して

看護副部長 山縣 みどり



就任に間もなく、MQI発表大会に参加でき、11チームの活動報告を聞かせて頂いたことで、病院全体での取り組み内容がわかり、大変参考になりました。

11チームの活動メンバーの皆様、お疲れ様でした。今年度の統一テーマ「自分で考え、実践する」の通り、それぞれのチームが日々の業務を見直し、より良いサービス提供のための改善策を考え取り組みをされていたと思います。ただ、内容を選択する段階やまとめの段階での分析が、不十分なところがあったのではと思います。この点は、次年度の活動開始時にMQI活動の基本を再度見直すのも必要ではと思います。

今回の活動報告がゴールではなく、スタートです。今後、活動を継続し続けることで、病院全体の質が向上し、より良いサービス提供に繋がるように、職員みんなで協力して欲しいと思います。

最後になりましたが、推進委員の皆様、お疲れ様でした。

★ 各チームからのコメント ★

 <p>自分で考え、実践する （MQI）発表大会</p>	活動主体部署 テーマ チームリーダー コメント	内視鏡センター 「アップル」 チーム 『大腸内視鏡検査・治療パスの統合』 市原 明子 内視鏡センターでは大腸検査・治療統合パスの作成に取り組みました。使用頻度も高く、今後円滑かつ安全な運用を目指したいと思います。今回発表の準備が遅れ、他部署の方々にもご協力頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。
 <p>自分で考え、実践する （MQI）発表大会</p>	活動主体部署 テーマ チームリーダー コメント	リハビリテーション科 「クラブ Skeleton」 チーム 『嚥下造影検査の導入』 長谷川 靖子 先生方とのスライド添削のやりとりは、学生時代を思い出し勉強になりました。今回の活動を経てVF検査を利用できるようになり、今後は患者さんのQOL向上を目標に、さらに業務に励みたいと思います。
 <p>自分で考え、実践する （MQI）発表大会</p>	活動主体部署 テーマ チームリーダー コメント	地域連携室 「ネットワーク」 チーム 『「練馬医療連携ネットワーク」の運用と地域医療機関との連携強化』 大野 麻那 地域医療機関の先生方、院内関係各部署、多くの方々にご協力いただき発表大会を終えることができました。ありがとうございました。発表をゴールとせず、今後も地域医療充足のために活動していきたいと思っています。
 <p>自分で考え、実践する （MQI）発表大会</p>	活動主体部署 テーマ チームリーダー コメント	NST 「美食倶楽部」 チーム 『SGAの正しい登録方法の啓蒙、SGA登録率と評価率の向上』 中山 香 前回と今回のMQI活動で、栄養管理手順の作成ができました。今後、定期的に勉強会などを開催し、適切に栄養評価の介入ができるよう、引き続き活動していきたいと思っています。
 <p>自分で考え、実践する （MQI）発表大会</p>	活動主体部署 テーマ チームリーダー コメント	健康医学センター 「MTB 85」 チーム 『特定保健指導の実施率向上を目指して』 岡部 麻美 今回、これまでの健診の流れを変えることに着手し、他部署のご協力もあって、無事に健診体制を再構築することが出来ました。これからも、生活習慣病予防・疾病の早期発見に向け、センター職員一丸となって頑張ります。
 <p>自分で考え、実践する （MQI）発表大会</p>	活動主体部署 テーマ チームリーダー コメント	化学療法センター 「レジュメ」 チーム 『入院化学療法業務手順を見直し、安全・確実に業務を行う』 加藤 晶子 安全な入院化学療法を行うために、一年間活動を行ってきました。今回作成した手順が、今後も遵守されるようチェックしていくと共に、化学療法についての知識が深まるよう、活動を継続していきたいと思っています。

★ 各チームからのコメント ★

 <p>七回医療の質向上活動 (MQI) 発表者</p>	<p>活動主体部署 看護部 「無事カエル」 チーム</p> <p>テーマ 『入院・退院時業務の統一化』</p> <p>チームリーダー 乾 美奈子</p> <p>コメント 今回は医事課に協力して頂いたことで、長年の問題点であった入院受付待ち時間を劇的に短縮する事が出来ました。MQI初心者ばかりで分からない事だらけでしたが、最後まで活動出来て良かったです。</p>	
 <p>七回医療の質向上活動 (MQI) 発表者</p>	<p>活動主体部署 ME室 「なんとかし隊」 チーム</p> <p>テーマ 『ME機器の中央管理運用をめざして』</p> <p>チームリーダー 軽部 みゆき</p> <p>コメント MQIキックオフから8ヶ月と長い間、他部署の方々と関わり多くのことを学び、習得することができました。今回の活動はH.19年度の活動の継続にあたり、日々業務の質向上につながっていることが実感できました。</p>	
 <p>第十七回医療の質向上活動 (MQI) 発表者</p>	<p>活動主体部署 医事課 「あずみん☆」 チーム</p> <p>テーマ 『医事課窓口業務を見直して患者と職員の不満を解消する』</p> <p>チームリーダー 梁瀬 浩孝</p> <p>コメント 今回、医事課の活動は、各部門との相談・調整が不可欠となりました。御協力頂いた部署の皆様、本当にありがとうございました。今後も各部門との連携を大切にして業務改善に努めていきたいと思ひます。</p>	
 <p>七回医療の質向上活動 (MQI) 発表者</p>	<p>活動主体部署 薬剤科 「Team SP」 チーム</p> <p>テーマ 『薬剤師の持つ情報を積極的に役立て、病棟での薬剤業務を充実させる』</p> <p>チームリーダー 中島 みゆき</p> <p>コメント 今回は、薬剤師の病棟活動開始を皆さんに知っていただく良い機会になりました。困難な時もチームの皆に支えられ成し遂げ、自分も成長できました。これをきっかけに業務を充実させていきたいと思ひます。</p>	
 <p>第十七回医療の質向上活動 (MQI) 発表者</p>	<p>活動主体部署 放射線科 「マジッキーズ」 チーム</p> <p>テーマ 『心カテ業務の見直し』</p> <p>チームリーダー 松尾 道暁</p> <p>コメント MQI活動を振り返ってみて、個人的には初めてのことで、うまくいかない部分もあり、迷惑をかけることもありましたが、大変だった分、最終的にやって良かったと思うことができた活動でした。</p>	



★各賞受賞チーム★

- **最優秀賞** : 【ネットワーク】
(地域連携室)
- **優秀賞** : 【Team SP】
(薬剤科)
- **努力賞** : 【あずみん☆】
(医事課)
- **努力賞** : 【レジュメ】
(化学療法センター)
- **努力賞** : 【MTB85】
(健康医学センター)
- **院長賞** : 【マジッキー】
(放射線科)

★ 長時間に亘る審査を有難うございました ★

☆ 審査員 ☆



【審査員長】
柳川達夫
推進委員会
委員長



【審査員】
金内幸子
推進委員会
副委員長



【審査員】
若松恵子
副看護部長



【来賓】
(株)ゲンバリサーチ
代表取締役
ブラッド・シュミット様



【来賓】
ひたちなか
総合病院
院長
永井庸次様



【来賓】
(株)楨コンサル
タントオフィス
代表取締役
楨孝悦様



【来賓】
(公財)東京都
医療保健協会
理事
小口弘様

★ お疲れ様でした ★

☆ 座長 ☆



☆ 時計係 ☆



☆ 活発な質疑にご褒美 ☆



★ 発表を終えて なごやかな懇親会 ★



★ 活動・発表大会を支えました ★

☆ MQI推進委員 ☆



☆ 司会 ☆



☆ 受付 ☆



直前までどうなることかと心配しましたが
全チーム発表までよく頑張りました！！

～特別講演～ 「革新活動を活性化する5要素」

株式会社ゲンバリサーチ 代表取締役 フラッド・シュミット様



自己紹介

【国籍】

南アフリカ・カナダ

【生い立ち】

・昭和48年4月生まれ(札幌)

・高校3年まで転校8回

・4か国の教育制度を経験

【略歴】

1995年 カナダでリムジン会社を経営

1998年 友人とゲンバリサーチを設立

2006年 同社日本法人設立

2011年 KAIZEN Institute と合併



11月14日 当院見学会

11月14日に各国からの「カイゼン」見学者を当院に連れてこられたブラッド・シュミット氏に、MQI発表大会で「革新活動を活性化する5要素」をテーマに講演していただきました。講演要旨を一部紹介します。

●我が国の価値観・強みを理解しよう

…「和」は保つものではなく構築するもの／自己犠牲を払って造るもの。権利の主張ではない。

しかし

●気を付けないと真実よりも和を尊ぶ

…その場しのぎの「和」／真実が出てくると面倒なので隠ぺい。

●真実が尊ばれる会社にする為には、どうすれば良いのだろうか？

・チームで仕事ができるように机を移動式に変更・オフィスを現場に移した

…生産管理は営業と製造の中央に設置。立机を使用し、容易に直接話に行けるため進捗会議をする必要がなくなった。

・真実を知り、真実を見せることでコミュニケーションの問題は激減した

●ミスコミュニケーションのムダ・ムリをなくす

…言葉だけでは伝わりにくいので、書きながらディスカッションすると理解が早い。

●革新を活性化するための5要素

①損得よりも善悪で行動する ②上司の許可を得て改善するのではなく、自ら「正しい」と断言できる思考回路で行動する ③Complianceではなく

Commitment 意図している事を理解し、ルールを曲げる ④異業種の企業を見学・視察し新鮮なアイデアを持ち帰る ⑤荒っぽい改善からくる楽しみを従業員から奪わない

実際、出張中に自分の机もなくなったそうです！

とても流暢な日本語で改善の具体例をたくさん紹介してくださいました。そして前評判どおりの『きさくな道産子イケメン！』…とても楽しい講演で時間が短いのが残念でした。

(文責:金内)

第17回MQI発表大会に関する総論的感想

株式会社 榎コンサルタントオフィス 代表取締役 榎 孝悦様



今回の統一主題は「自分で考え、実践する」であり、飯田院長は「プロセス・オーナー」という言葉を使用されています。私も、今回はその精神にのっとり、審査員として自分なりの審査基準を作って審査に臨みました。結果として、例年に比べてかなり厳しい点数を付けさせていただきましたが、同時に自分自身も深く反省させられる発表大会でした。よく病院は労働集約型産業であり、病院職員は他のサービス産業と比較すると専門性が高く、流動性の高い職場と言われていますが、練馬総合病院においても職員は毎年、入職・退職で多くの方が入れ替わっています。

17年間続いているMQIに最初から関わっておられる方が何人おられるかわかりませんが、組織として長年にわたりこの活動に取り組んでいる以上、ノウハウの蓄積、組織文化の継承というバックボーンがある訳ですから、毎年、成長の軌跡を示していかなければなりません。このような観点からすると、少しもの足りなさを感じているのが正直なところです。しかし、これは質の向上に取り組む最前線の医療機関に勤務されている皆さんに期待するが故の感想であり、他の病院で取り組まれている質向上活動と比較しても標準以上の活動と成果を達成していることも事実です。

今後の成長のためにあえて指摘をさせていただきますが、第一に基本的な部分ですが、活動定義書と実際の発表内容に乖離が見られるケースが多いと思いました。第二に方法論として、現状把握の分析をもう少し綿密に行う必要があると思いました。特に分析の結果を発表することに集中し、分析の意図が不明瞭になっている発表が多かったような気がします。第三に根本的なことで、全体的に歯止め・標準化がこれで良いのかという感想を持ちました。

忙しい中で、たくさんの方が時間を調整しながら発表の準備をされてきたと思いますが、それぞれの有効なプロセスを取りまとめ、取捨選択して全体のアウトプットを形成するリーダー的な役割がうまく機能していなかったのではないかと想定いたします。政治の世界でも経済社会でも、わが国にリーダーが不在であると様々なメディアが指摘している昨今ですが、同様にMQIにおいてもリーダーの役割をどう機能させていくかが今後の課題になると思われます。リーダーに求められる素養の一面は、歯止め・標準化とは相反する独創性・標準外などにあると思います。医療を含めたサービス産業において標準化、規格化、ミス・トラブルの防止などを目的とした活動を推進することが、その組織におけるリーダー機能の喪失に何等かの影響を及ぼしていたことのあるのではないかと気づかされ、今後のMQIを考えることが今後の日本社会のありようを検討することと同軸になると考えさせられました。同時に「守破離」という言葉も思い浮かびました。

以上、いろいろ述べさせていただきましたが、審査員という立場を降りれば、その発表も皆さんの努力が感じられるものであり、私自身、本当に考えさせられる発表大会でした。

審査員より各チームへ(一部抜粋)～良い点、改善点・ご意見など～

テーマ	良かった点	今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想など
<p>1. 内視鏡 『大腸内視鏡検査・治療パスの統合』</p>	<p>大腸内視鏡件数の増加に伴い、特に大きな事故はないが未然に事故防止すべく、しくみを変更した点。パスの統合後、治療後の指示が確実に与えられる割合が改善(医師)された点が評価できる。</p>	<p>・医師と看護師の認識のギャップをどう埋めるかが今後の課題と感じた。 ・原因追求スライドではアンケートで分かった問題点の分析が必要。実施したパスでのオーダーをみて、不具合を調べることも考えられたのではないかと。</p>
<p>2. リハビリ 『嚥下造影検査の導入』</p>	<p>・当院で必要な検査を実施できる体制作りをした点。特に見やすいフロー図を作成して関係部署に説明したこと。 ・シミュレーションをしたのは大変良い。やはり、やってみないとわからないことが多いですね。</p>	<p>・効果・成果について目的を達成できたかどうか分からなかった。この検査が継続して依頼されて活用されるためには、綿密な歯止め・標準化が特に必要。 ・検査のメリットが医師と患者さんに実感されれば、今後更に嚥下造影検査が発展すると思います。</p>
<p>3. 地域連携 『「練馬医療連携ネットワーク」の運用と地域医療機関との連携強化』</p>	<p>・活動内容と発表内容が活動テーマと合致して成果も得た点が評価できる。 ・新システムを導入し、地域と連携し、各診療所とのコミュニケーションがスムーズになったことは良かった。</p>	<p>直接、地域の診療所へ出向く努力は素晴らしい。今後も改善していくには、参加医療機関の声を継続的に聞いていく必要がある。更に、紹介を受けた院内医師や関連部署側にも意見を聞いてみたら、大きな効果やメリットが見えたのではないかと。</p>
<p>4. NST 『SGAの正しい登録方法の啓蒙、SGA登録率と評価率の向上』</p>	<p>・栄養評価数の増加や看護師が登録できるようになった点。 ・難しいSGAについて再度取り組んで改善の成果を得た点が評価できる。</p>	<p>・まず何をしたいのか、目的が定まっていなかった。したがってやるべきことがみえず進捗は遅れ、また目的が変更になった。 ・歯止め・標準化について、勉強会開催など、もう少し項目が必要ではないかと。</p>
<p>5. 健康医学センター 『特定保健指導の実施率向上を目指して』</p>	<p>・目的通りに事が運び保健指導実施率向上した点。 ・患者が同日に結果説明と指導を得ることで時間短縮となり、本人にとっても健康に対して早く取り組むことができる。</p>	<p>現状把握、原因追究が十分でない。今まで特定保健指導を受けた人の声を集めて、現状の問題点を何か数値で表すことができれば、もっと良かったのではないかと。</p>
<p>6. 化学療法 『入院化学療法業務手順を見直し、安全・確実に業務を行う』</p>	<p>・より安全な病棟での化学療法実施にむけ、事故にならないよう改善した点 ・みんなが使う道具をより使い易くしたのがGood。また、「なぜ、なぜ」分析で、人ではなく仕組みの問題を洗い出したのは良かったです。</p>	<p>・「化学療法委員会」について、もう少し具体的な説明があれば良かった。 ・現状アンケートを取ったがその分析と対策が遅れたため、病棟で十分に周知できなかった。今後の課題としたことを必ず実行してください。</p>
<p>7. 看護部 『入院・退院時業務の統一化』</p>	<p>・入院退院業務の統一化ということで3つの目標を設定し、全てに成果が得られた点が評価できる。 ・部門をまたいでの改善は素晴らしいですね。</p>	<p>・入院に対する活動に比べると、退院に関しては十分な活動とは言えないのではないかと。MQI終了後はチェックリストの活用状況確認と評価、退院時忘れ物調査などを看護部で組織的にできるように検討してください。</p>
<p>8. ME室 『ME機器の中央管理運用をめざして』</p>	<p>・ME機器を組織的に管理するしくみができた点 ・過去の取り組みを整理した上での現状把握であり、練馬総合病院の現状と問題点が見える内容であった。</p>	<p>・今後の課題として、今回の管理からはずれた機器の管理としていますが、MQI終了後も継続して管理できるようにしてください。 ・今後、現場の日常点検の必要性を理解してもらい取り組みに広げてほしい。</p>
<p>9. 医事課 『医事課窓口業務を見直し患者と職員の不満を解消する』</p>	<p>・改善すべきであるが長年問題になっていた2つの業務を今回の活動でかなり改善できた。 ・受付する患者さんの目線で不合理な問題点に真正面から取り組んだこと。</p>	<p>・患者の苦情もなくなったとの説明であったが、どの程度の苦情があったのかが分からなかった。 ・取り組んだ内容が濃い分、発表の組み立てが難しかったと思います。残した課題にも積極的に取り組んでください。</p>
<p>10. 薬剤科 『薬剤師の持つ情報を積極的に役立て、病棟での薬剤業務を充実させる』</p>	<p>・病棟での薬剤業務を始めるにあたり、基本的な業務を決めて実行した。今回は看護師とのかかわりでチーム医療を推進できた。 ・分かりやすいスライドと説得力のあるデータに基づく発表であった。</p>	<p>・DIニュースに関するアンケート結果のスライドの位置づけが分からなかった。 ・医師を巻き込んだ活動ができなかったことは残念。今後は積極的にアプローチしてください。 ・薬剤師をもっと多くの場面に参加させたいですね。</p>
<p>11. 放射線科 『心カテ業務の見直し』</p>	<p>・専門分野以外の業務を各専門職が共有化することで検査開始までの準備時間が短くなった点が評価できる。 ・業務の問題点を限られた人的資源の中でいかに効率よく業務を実行していくか工夫した。</p>	<p>・患者の入替時間について新体制発足後どれ位のデータなのか不明であった ・定期的な心カテ会議を今後の課題としていますが、症例検討などであれば看護師だけでなく関係者が集まると思いますので、広く声かけて実施して下さい。</p>

MQI 発表大会アンケート集計結果 (回答数50名)

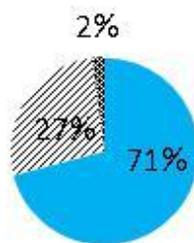
あなたの職業は何ですか？



発表大会についていかがですか？

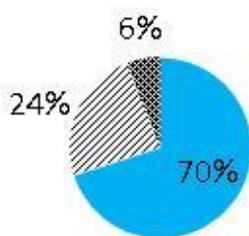
1) 日時

■ 良い ※ ふつう ■ 悪い



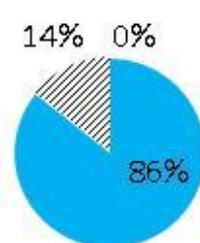
2) 会場

■ 良い ※ ふつう ■ 悪い



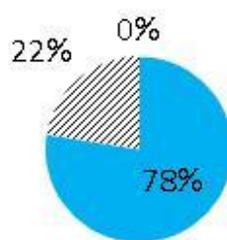
3) 運営

■ 良い ※ ふつう ■ 悪い



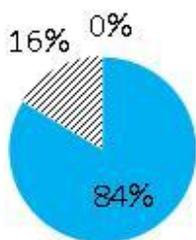
4) 発表内容

■ 良い ※ ふつう ■ 悪い



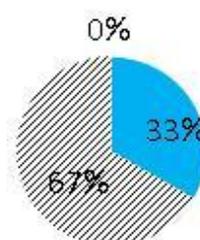
5) 質疑内容

■ 良い ※ ふつう ■ 悪い



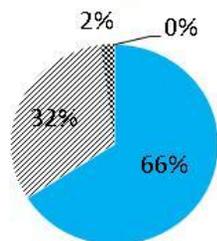
6) 発表・質疑時間

■ 短い ※ ふつう ■ 長い



発表大会に参加していかがでしたか？

■ とてもそう思う ※ まあそう思う
 ※ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



N=47

その他意見

【良い点】

とても明るく和やかムードでよかったです。
 ゴディバはおもしろいアイデア。雰囲気づくりにも役立つ。
 外部の方の意見が多数あってよかった
 発表形式が決まっているのでわかりやすくてよかったです。
 他部門との連携が素晴らしい。

【悪い点】

スクリーンがみにくい。
 グラフや表が分かりづらいものがあった。
 推進委員からもう少しフォローしてほしい。
 開始前にまとめ方や統計についての説明がほしい。 他...

**推進委員会では、このようなご意見・ご感想を今後の活動に役立てたいと思います
 ご協力ありがとうございました！！**